かくいう私もまた以後これを言うまいと心ひそかに誓いました。私とて若くありたい。

ブラジルで考えたこと

福　井　英一郎

昨年の１２月から今年にかけて約２ケ月間ブラジルを歩いて来た。調査の中心はアマゾンとともに最も開発のおくれている東北地方であったが，一方文化的にも経済的にも最も進んでいるリオデジャネイロからサンパウロにわたる一帯も見ることができたので，これで不十分ながらもこの国の全貌を捉え得たように思う。その間いろいろと興味深く感じた問題の中の一つを記して見たい。この東北地方は潜在的の資源や生産力はかなり豊富で，この国の発展にとって非常に重要な地域であるが，その開発には基本的の調査が不可欠であり，今回の旅行の目的もここにあったわけである。しかし現地を歩いて痛感したのは，かりに自然的障碍をある程度改善しても，現在見られる社会構造や文化の段階が変らない限りは将来の発展の可能性に多大の不安を抱かざるを得ないことであった。すなわち，ここでは土地の大部分を占有する小数の大地主と貧困と無知の大衆とから成り，この中間の階層がほとんど存在しない二元性の社会であり，未だに中世紀的段階から脱していないと言ってもよいであろう。それでこのままではいかに自然条件が改善されても産業は振わず，到底将来の繁栄は期待し得ないであろう。その中で第一に考えられるのが土地制度であるが，かりに日本の農地改革のようなことが実現したとしても，現在の教育程度では恐らく無意味であろうとの意見が現地でも有力であった。これは日本ではとても想像もできないほどで，ブラジル全体の文盲率がほぼ５０％，東北地方では７０％を越え，その奥地では９０％以上のところさえあり，日本のように津々浦々にまで小学校があるのではなく，大体日本では高等学校が設けられている程度の町にやっと小学校があると考えればよいであろう。それで，ほとんどの人が文字を知らないだけでなく，彼等の世界は非常に狭い範囲に限られ，ほかに恵まれた豊かな生活があることを知らないために，社会に対する不満もなく，衣服は気候の関係から極めて簡単で足り，食物も極端に言えば何ら労せずして手にはいるので，特別の努力や創意工夫を必要とせず，このために生活の向上や発展への意欲を生じないのである。これでは制度だけをいくら働きよい社会にしても効果は期待し得ないわけで，教育の普及と知識の向上こそが先決の問題であろう。ここですぐ頭に浮ぶのが日本で，敗戦によって決定的の打撃を受けてから僅か２０年と少しを経たばかりの今日，世界の列強に伍して発展をつづけ，とくにその経済成長においては先進国をしのぐほどである。今度の旅行でもブラジルをはじめとするラテンアメリカ諸国への日本大企業の進出は誠に目を見はらせるものがあった。これは単に日本民族が勤勉で耐乏力に富んでいること以外に，戦後の国際情勢の急変や国防費が極めて

少額であることなどが有力な理由にあげられているが，何と言っても教育の普及にともなう知的レベルの向上こそがその原動力ではなかったろうか。この基礎の上に明治以来約１００年間に外来の文化をよく吸収・消化して今日の活動や繁栄を可能ならしめた源泉を養ったものと考える。したがってその源は明治初年に行われた教育制度の確立であり，当時すなわち１９世紀の後半においては欧米の先進国さえも二，三の国を除いては教育は普及していなかった時代に，ここに着目した日本の為政者の高い識見と深い洞察力にはただただ感歎の他はない。その功罪についてはとかくの批判も多い明治の元勲達もこのことだけについてはわれわれ国民は永久に感謝銘記すべきであろう。実に明治５年に発せられたという〝邑に不学の戸なく，家に不学の人なからしめんことを期す〟との大号令こそは今日の日本を生んだ出発点であったとも言えよう。由来教育の事業にその重要性だけは十分に理解されていながら，何分その効果があらわれるのは数十年の後であるから，目先のことだけが取り上げられ，後まわしにされ勝ちであるが，上記のことはいかに国家の興隆と大きな関係があるかをブラジルの現状を直視して思いを新たにした次第である。

近況と感想

保　柳　睦　美

この４月から，急に立教大学に移りました。ここでは先生も学生たちも，お茶の水に劣らずよい人ばかりで，気持がよい毎日を送っています。しかし何といってもホッとしたことは，停年が２年ばかり延びたことです。都立大学でも停年までには，まだ２年ばかり残っていたのですが，少し前から，だんだんに追いつめられたような気がして困りました。停年に追いつめられるというよりも，停年までにこれだけの研究は完成しておかなければ，という気分に追われて，次第に気持に余裕がなくなってきていました。しかし私などは幸福な方で，もしこれに加えて停年後の生活の不安にまで襲われたら，どんなに暗い気持にとざされることであろうと，人ごとではない気がします。もっとも，これもみな自分が年をとった証拠です。

ところで最近は寿命が延びたから停年を延ばせという議論もあるようですが，これには無条件には賛成できません。動物的な寿命が延びたことは事実ですが，頭脳の生命も延びたという証明が，はたしてなされているのでしょうか。大学の先生には，これがいちばんの問題だと思います。頭の寿命がきているのに，大学の先生という職業の寿命だけ延ばしたことになったら，これは税金のむだだし，教えられる学生にも不幸なことです。ここに今後の私にも，また不安があります。だから頭の方もまだだいじょうぶだという証明を自分でやらなければならない。もちろんそれは学究方面のことで，いいかげんな評論や通俗本作りなどをやっていたのでは，ますます社会の心ある人々の